

2024年11月5日

# 2025年3月期第2四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

# ハイライト

## 2025年3月期 第2四半期連結決算

### 売上高

- ✓ **323億円、前同比2.3%増加**  
医療用医薬品事業に加え、アニマルヘルス事業の伸長により過去最高を更新

### 売上原価

- ✓ **164億円、売上原価率 前同比1.2ポイント改善**  
先発医薬品であるレルミナ、リフキシマ等の伸長による製品ミックス改善が寄与

### 販売費及び 一般管理費

- ✓ **125億円、売上高販管費率 前同比0.5ポイント増加**  
減価償却費は減少したものの、研究開発の進展に伴う費用の増加により、販管費率が上昇

### 営業利益

- ✓ **33億円、前同比9.5%増加**  
増収に伴う、売上総利益の増加により増益

## 2025年3月期 通期連結 ※変更はありません

### 業績予想

- ✓ **売上高 630億円、前同比0.2%増加**
- ✓ **営業利益 67億円、前同比3.1%増加**

# 損益計算書（連結）

単位：百万円	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	31,648	32,371	722	2.3%
営業利益	3,055	3,345	290	9.5%
経常利益	3,096	3,312	216	7.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,129	2,560	△1,569	△38.0%

## 増減要因

- ✓ 不安定な世界情勢や原材料・資源価格の上昇など、先行き不透明な状況が続いている中で、当社グループでは医療用医薬品事業やアニマルヘルス事業の伸長等により増収となりました。
- ✓ 利益面においては、研究開発費等費用の増加はあったものの、原価改善が進んだこと等から、営業利益・経常利益ともに前年同期を上回る結果となりました。
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益については、前年に特別利益として投資有価証券売却益を計上した反動により、前同比38.0%減となりました。

# 事業別売上高（連結）

単位：百万円	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	28,404	28,617	88.4%	212	0.7%
アニマルヘルス事業	3,162	3,640	11.2%	478	15.1%
その他事業	80	113	0.4%	33	39.9%
合計	31,648	32,371	100.0%	722	2.3%

## 増収要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、毎年の薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。「レルミナ」が順調に伸長したほか、「ドロエチ」が前年に続き大きく増加し、「チラーヂン」「リフキシマ」も着実に伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業は、飼料添加物やコンパニオンアニマル用医薬品を中心に売上高は前年を大きく上回りました。

# 主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期		2025年3月期		ご参考 期初計画	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)		
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	4,952	4,302	△13.1%	8,388	△12.6%	8,626	薬価はダウンしたが数量ベースをほぼ維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	4,000	4,052	1.3%	7,861	0.0%	8,018	長期目線では微増が継続
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	2,997	3,227	7.7%	6,288	7.2%	6,117	ガイドライン浸透とともに堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	776	792	2.1%	1,526	0.3%	1,510	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	430	400	△7.0%	784	△6.7%	806	薬価ダウンの影響
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	5,186	5,413	4.4%	10,726	8.3%	11,251	子宮内膜症のシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロイチ	2,909	3,589	23.3%	7,070	15.4%	5,990	想定以上の大幅な進捗
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	1,663	1,550	△6.8%	3,026	△8.4%	3,101	数量増だが薬価ダウンの影響が大きい
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	876	1,143	30.5%	2,341	15.4%	2,106	引き続き堅調に推移
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	367	350	△4.7%	746	2.9%	790	プロモーション強化に注力
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	355	376	5.9%	713	1.0%	665	想定通りの進捗
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	2,321	2,037	△12.2%	3,938	△11.1%	3,962	薬価ダウンの影響

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

# 主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期		2025年3月期計画		ご参考
	実績	実績	増減率(%)	見込	増減率(%)	期初計画
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	1,873	2,275	21.5%	4,260	5.4%	4,031
動物用医薬品 (畜水産+CA <sup>※</sup> )	1,189	1,339	12.6%	2,590	4.2%	2,534

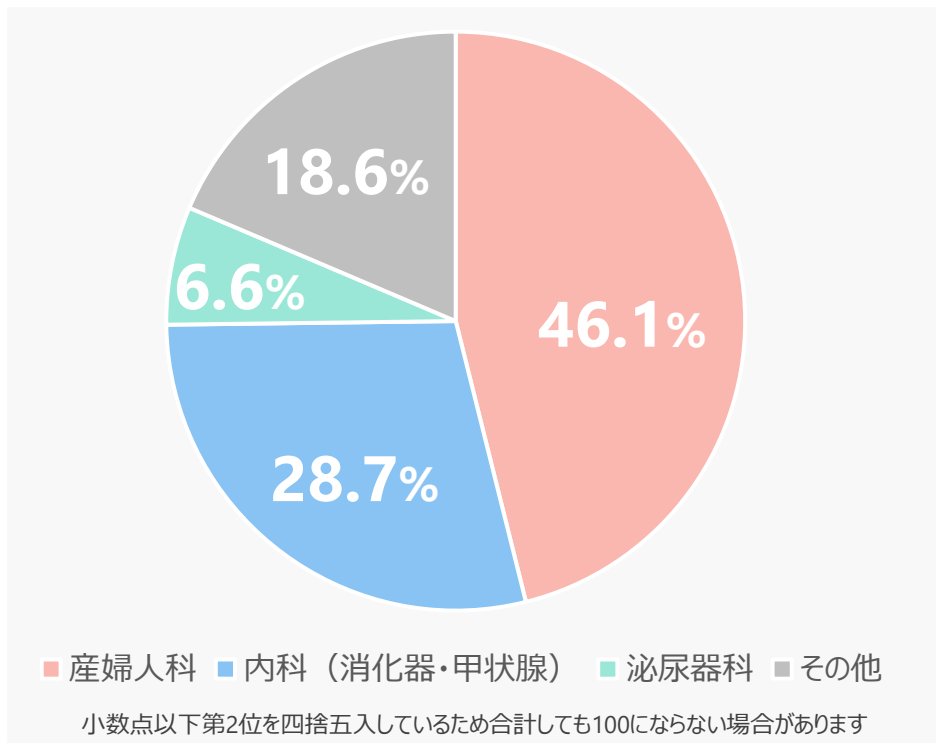
## 増収要因

- ✓ 2025年3月期第2四半期は、飼料添加物やコンパニオンアニマル用医薬品が伸長したことで増加しました。
- ✓ 2025年3月期通期においても、飼料添加物、コンパニオンアニマル用医薬品の伸長を見込んでいます。

※ コンパニオンアニマル

# 領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

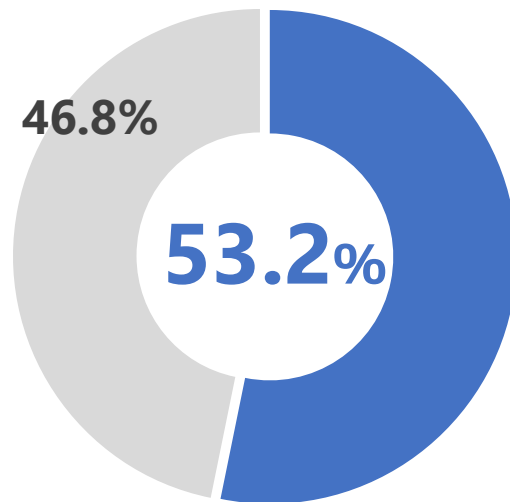
## 領域別売上高比率※ (2025年3月期第2四半期)



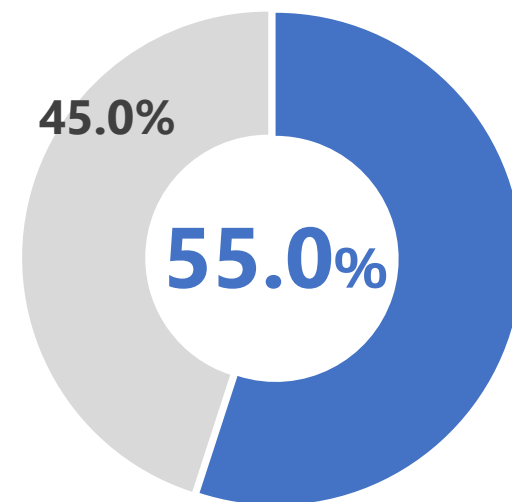
## 先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2024年3月期  
第2四半期



2025年3月期  
第2四半期



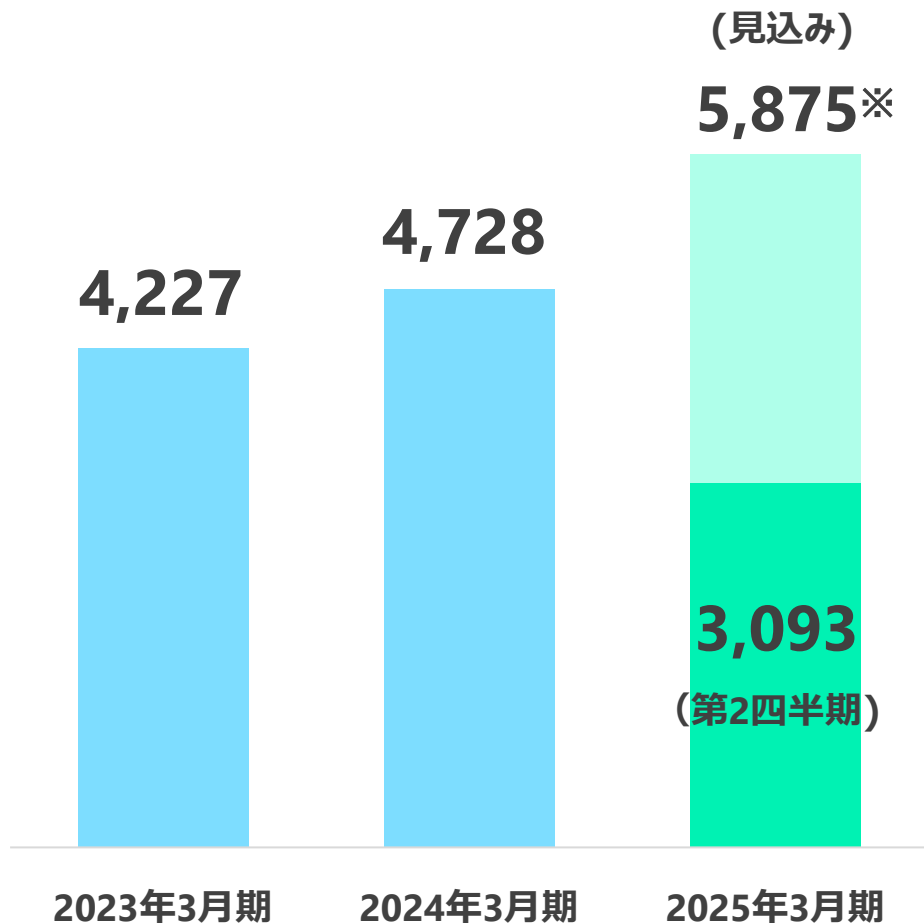
レルミナ、リフキシマ、チラーチンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は1.8ポイント増加しました。

※ 内科領域の品目を見直し、一部製品を「その他」から「内科（消化器・甲状腺）」へ移行

# 研究開発の状況

## 研究開発費推移

(百万円)



※ 期初公表 (5,575) より修正

## 2024年11月5日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	申請済み
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph III 準備中
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮内膜症	開発準備中
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II *
AKP-017 (テストステロン経鼻剤) 泌尿器科領域	開発準備中
AKP-021 (mPGES-1阻害剤) 泌尿器科領域	開発準備中

\* 再度実施したPh I 試験の結果を受け次のステップを検討中です